

わかった！できた！



令和2年8月26日 No.10

○第3回校内研修を行いました。

8月26日（火）に、学力フォローアップ校事業の第3回校内研修を行いました。今回は11月に予定している研究会に向け、第2回に行ったつますきの要因分析から検討した手立てをもとに作成した学習指導案の検討を行いました。

研究会では、第1学年算数科「ひきざん（2）」、第2学年国語科「あなのやくわり」、第3学年算数科「分数」の授業を予定しています。学年ごとに行われた指導案検討では、指導主事にも入っていただき、めあてに関わって「児童が何ができるようになるればよいのか」を明確にすることや、単元の内容に関わる指導事項に対してどのようなつますきが想定され、どのような手立てをすればよいのか、などを話し合うことができました。本日、検討したことを今後の日々の実践に生かしながら、研究会に向けて準備を進めていきたいと思えます。

また、広島県教育委員会西部教育事務所より中塩曜子指導主事に来ていただき、児童に身に付けさせたい指導事項から手立てを考えることや、その際に前年度の目標が達成されているかという視点で分析することなど、学力に焦点を当てて分析することの重要性について教えていただきました。

児童の実態把握について（国語科）

- 前の学年の目標を分析し、その目標が達成できているのかどうかを把握し、児童の実態分析を行うことが重要。算数の九九や計算と同様に考えるとよい。既習事項ができていないと次に積み上げるのが難しい。
- たんぽぽの単元で児童の「書くこと」についての学習達成度はどうだったのか。はじめ・なか・終わりが理解できていたのか。という視点で分析する必要がある。学習はつながっているので、前の学習についてどうだったのかを分析することが重要。



学力に焦点を当てた分析・支援

- 学習評価に課する参考資料を参照し、評価していく。学力に焦点を当て、児童に力をつけるためには、どの力をつけていなければならなかったのかを把握して支援する必要がある。
- 生活全般の実態を分析するのも重要ではあるが、もっと学力に絞って手立てを打つように検討することが大事。全体的な分析も重要となるが、今後は、学力に焦点をあてた分析・支援を研修する必要がある。

